

千萬人とも思ひ、吾往かん。嗚呼何と云ふ力強い言葉であらうか、自分はこの語を誦する度に我が胸の沸き立つを禁じ得ないのである。

衷心に燃ゆる職分の命するが儘に此の身を粉碎し、この魂を焼き盡さなければ止み難き心地がするのである。丁度それは心に燃えしきる青年の勢情の如きものであらう。

「千萬人とも思ひ、吾往かん」此の勇氣があつてこそ吾々青年は意氣があるのである。

一方眼を轉じて村内情勢を見んか、果せるかな多くの問題が今や解決遅しこそちかまへてゐるのである。

曰く移民計畫、曰く村行政問題等々蓋し吾等は早きを欲してはならない。近きを欲んでは勿論ならない。人間修養のため力強い一步への實現を要望してゐるので、時又縣道の改修に、天龍社建設に、又電燈問題國家管理法案にしても、當村には相當關係を有する問題であらう。就中天龍社第五工場問題の如き、縣當局が其の裁斷を出ただけに奮取に至る今日迄の経緯には相當の裏面的關係、村の運動もあり、この工場誘致に至つては村當局、關係者の努力を推賞して余りあるものであると思ふ。

千萬人とも思ひ、吾往かん。嗚呼何と云ふ力強い言葉であらうか、自分はこの語を誦する度に我が胸の沸き立つを禁じ得ないのである。

(論) (壇)

■諸問題

千萬人とも思ひ、吾往かん。

△△△「自ら省みて直くんば千萬人とも思ひ、吾往かん。嗚呼何と云ふ力強い言葉であらうか、自分はこの語を誦する度に我が胸の沸き立つを禁じ得ないのである。

又一方時又道路擴張問題に

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△

天龍社第五工場地

遂に本村に凱歌舉る

今後の利用如何は期待もの?

下伊那製絲聯合會天龍社が第五工場を諏訪方面に建設せんとするや・本村、龍江、川路の三村が敷地獲得運動に鼎起し、容易に決定し兼る状勢に立到つたので天龍社は敷地裁斷を縣に一任しあつた所、七日に至り本村時又驛西南方に決定した旨、縣經濟部から

産組郡部會宛通知して來、遂に凱歌が擧がつた。決定した場所は經濟、地勢水利、交通等から見てこの上ない好適地で、天龍社は直に地元本村種々折衝を開始する事にならうが、敷地決定に對し本村が犠牲的に天龍社に申出でるる交換事項は當編纂部の推則す

るに道路開設、整地費寄附、土地最少限補償料要求、敷地料(一升二合以内)電氣料最低廉提供等である。而して今秋着工する假設計にすれば工費は四十萬圓以上と推算され、來年春挽から開かれる事になつてゐる。

して、アンモニア態に變り効を顯すのである。又石灰窒素が空氣に觸れるごとに含む窒素の形はシヤナ酸石炭を吸收して容積を増し、水を吸收して熱を出す。亦石灰窒素は多量の石灰分を含むから硫安や過磷酸石炭を混合するはよろしくない。即ち配合肥料の原料となるのである。

◆ 石灰窒素の肥効と有素性近頃一般養蠶家の石灰窒素に対する知識は高まつて來た様であるが、それでも尙一般作物に對し、施肥方を誤り失敗したもの、中にも一部のものは非常に悪いと云ふ様に、その間隔が普通の肥料よりも大きい様に思はれる。之は石灰窒素の特有性が施肥法に據り、支葉量に關係するもので合理的に使用すれば、一ヶ年通じて反當二十五貫位施したのである。元來石灰窒素は土壤膠物や有機物の活動が旺盛である様な場合、分解が速く從る。元來石灰窒素は石灰ごコーケスから作つたカーバイトに、電氣爐中で空氣中から得たことの、暗灰色特徴ある物質で

又石灰窒素を多量に土壤中に施す時は分解の初めに於て有毒性を有し、桑に於ける有毒症狀としては、葉の縁が黒くなる。然し斯様な桑葉は蠶に直接害を與へない。然し桑葉に直接撒布されたものは蠶に劇毒を與へる。人体に於て實驗せられた所による。石灰窒素を多量に吸入する時は、その含有量された不純物質にて頭痛を起し、更に劇しい場合は頭や胸に發疹し、心臓の鼓動が増加するとか、血壓底下降する事がある。

之等の症狀は極めて稀に起るもので飲酒、長時間の入浴に

するに道路開設、整地費寄附、土地最少限補償料要求、敷地料(一升二合以内)電氣料最低廉提供等である。而して今秋着工する假設計にすれば工費は四十萬圓以上と推算され、來年春挽から開かれる事になつてゐる。

して、アンモニア態に變り効を顯すのである。又石灰窒素が空氣に觸れるごとに含む窒素の形はシヤナ酸石炭を吸收して容積を増し、水を吸收して熱を出す。亦石灰窒素は多量の石灰分を含むから硫安や過磷酸石炭を混合するはよろしくない。即ち配合肥料の原料となるのである。

◆ 石灰窒素の肥効と有素性近頃一般養蠶家の石灰窒素に対する知識は高まつて來た様であるが、それでも尚一般作物に對し、施肥方を誤り失敗したもの、中にも一部のものは非常に悪いと云ふ様に、その間隔が普通の肥料よりも大きい様に思はれる。之は石灰窒素の特有性が施肥法に據り、支葉量に關係するもので合理的に使用すれば、一ヶ年通じて反當二十五貫位施したのである。元來石灰窒素は土壤膠物や有機物の活動が旺盛である様な場合、分解が速く從る。元來石灰窒素は石灰ごコーケスから作つたカーバイトに、電氣爐中で空氣中から得たことの、暗灰色特徴ある物質で

る。元來石灰窒素は土壤膠物や有機物の活動が旺盛である様な場合、分解が速く從る。元來石灰窒素は石灰ごコーケスから作つたカーバイトに、電氣爐中で空氣中から得たことの、暗灰色特徴ある物質で

る。元來石灰窒素は石灰ごコーケスから作つたカーバイトに、電氣爐中で空氣中から得たことの、暗灰色特徴ある物質で

る。元來石灰窒素は石灰ごコーケスから作つたカーバイトに、電氣爐中で空氣中から得た



あゝ！小林伍長

去月二十六日サカシヨウの

五日原隊より實家に公報

喧！小林讓君長野原出身歩兵伍長小林君も舊ろう〇月〇〇日、今期事變に應召「勝つて来るぞ」勇ましく其の歌にも相應しく各地の戰闘に參加後世戰史に燐然として勳功を効て最後に計らずも去月二十六日山西省サカシヨウの戰闘に於て名譽の戰死を遂げた旨去る五日實家宛通報があつたが同君は溝洲事變にも參加する稀に見る勇士で其の死はさぞや武人の覺悟と今更涙を新たにした。茲に改めて君の死を悼むと共に今は亡き主の遺稿を綴つて靖國神社に居ます君の靈前に捧げる事になつた。(寫眞は君の近影)

在りし日の小林君

(親友への便り)

支那そばのウマサを

合作の便り有難う

えとお出度う。北支の假住
居より遙かに故郷の日の出を
思ふ。

十二年も波亂に暮れたお互に
色々思ひ出が多い事だらう
しつかりやる心算で故郷を後
にした事前後二回、而るにつ
ても乍ら神ならぬ身の浅まし
さ、思ふ様に働きないのを如
何とも難い。この間に於け
る銃後の御後援に對しては衷
心より深く謝して居る。

北支の戦線にも春は來た。
あれ程峻烈を極めた砲攻撃も
さっぱり立ち消へ、戦士も
支那人と共に冬眠の形さ。
逃ぐるに早い奴等は又集るに
も至極早い。見るゝ街も開
店し、殆んき全部が賣買し始
めた。一、豚万十、一、支那
そば、一寸伊勢屋より上手
だ。油つこいうまいものなら
いくらでもある。

故小林先生を追憶して

無二の親友 藤森信

「ウウ戦死！ 何處で

圖書館の窓から

を豫め館長又は圖書部員の
手許御提出下さい。

追而寄贈を受けたる圖書には
寄贈者の氏名及寄贈年月日
を明記し、永遠に其の篤志
を御傳へ致します。

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

<p

